

平成29年度 事業別予算概要

事業名	81100	消防本部運営事業費		会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	5	基盤・安全	根拠計画	消防計画	市長公約	市民の生命・財産・生活を守る「市民のための市長」として職務に専念します。
			予算	款	8	消防費		個別分野	9	消防	実施計画事業	消防本部運営事業		
担当課		内線		項	1	消防費		施策の概要	2	消防体制の充実	H29実施計画額	57,400 千円		
		2119		目	1	常備消防費								

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	高山市民及び白川村民	どうしたいのか(意図)	・市民生活の安全を確保するため、消防体制の充実や関係機関との連携を強化する。 ・119番通報に対する迅速・的確な対応を行い、市民の生活と生命・財産を守る。	概要	事業の実施手法(手段)	・消防本部の運営、関係機関との連絡・調整、大野郡白川村の消防事務の受託。 ・高機能消防指令システムの保守点検の維持管理。 ・県の防災ヘリコプターの飛騨地域常駐のための関係機関との打合せ、県への要望
	対象者数	91,684 人					

2 事業の推移・結果 (Do)

H27の実績		・消防署等施設及び通信指令装置等の維持管理 ・防災ヘリコプターの県への継続要望									
成果面	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31	
		119番通報受信件数		件	目標値	0	0	0	0	0	0
		実績値			6,717	-	-	-	-	-	-
		算出根拠等		通信統計	達成率(%)	-	-	-	-	-	-
		災害出動件数		件	目標値	0	0	0	0	0	0
		実績値			4,555	-	-	-	-	-	-
	算出根拠等			達成率(%)	-	-	-	-	-	-	
	成果指標			目標値							
				実績値							
		算出根拠等		達成率(%)	-	-	-	-	-	-	-
				目標値							
				実績値							
算出根拠等		達成率(%)	-	-	-	-	-	-	-		

3 分析・評価 (Check)

分析・評価で明らかになった課題	・施設の維持管理について、あらゆる面での節約が必要
-----------------	---------------------------

4 今後の方向性 (Action)

課題等に対するH28対応状況	・通信指令回線・病院間等の連絡体制は必要であり、災害時の消防無線を含め、通信機器の保守を継続する。 ・高機能消防指令システムの適切な保守管理方法を構築する。	
次年度の担当課の考え方	○ 維持・改善	・高機能消防指令システムを適切に保守管理する。
	拡大	
	縮小	
	廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費 (人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額	
	歳出(千円) (A)	51,448	48,541	72,999	122,455	
	受益者1件当たり(円) (A/B)	551	524	796	1,336	
	受益者	高山市民及び白川村民 (B)	93,308	92,595	91,684	91,684

5 予算編成 (Action2)

事業内容	・消防本部運営に関する企画・統制にかかる事務 ・人事、予算、庶務等消防組織に関する事務 ・全国消防長会等、消防本部に関する各種会議の対応	要求のポイント	・高機能消防指令システムによる消防体制の充実	事業実施の課題	・施設の維持管理費の節約
------	--	---------	------------------------	---------	--------------

事業費(人件費除く)		H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
財源内訳	歳出(千円)	72,999	122,455	49,456	114,584	114,584	積算内容を精査	・財務部査定のとおり
	国庫支出金			0				
	県支出金	518	579	61	732	732		
	その他	11,701	14,376	2,675	15,581	15,581		
	一般財源	60,780	107,500	46,720	98,271	98,271		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	81110	消防署運営事業費	会計	1	一般会計	基本分野	5	基盤・安全	根拠計画	消防計画	市長公約 市民の生命・財産・生活を守る「市民のための市長」として職務に専念します。
			款	8	消防費	個別分野	9	消防	実施計画事業	消防署運営事業	
担当課		消防本部 消防総務課	項	1	消防費	総合計画 施策の概要	2	消防体制の充実	H29実施計画額	29,300 千円	
		内線 2119	目	1	常備消防費						

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	高山市民及び白川村民	どうしたいのか(意図)	地域の防災拠点である消防施設の災害時に即応できる体制を常に整え、機械器具等の適正な維持管理を行う。	概要	事業の実施手法(手段)	・消防庁舎(本署1、分署3、出張所4)や機械器具の維持管理(うち、白川出張所は白川村から消防事務を受託している。)
	対象者数	91,684 人					

2 事業の推移・結果 (Do)

H27の実績		・消防庁舎(本署1、分署3、出張所4)や機械器具の維持管理								
成果面	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
					目標値					
					実績値		-	-	-	-
		算出根拠等			達成率(%)		-	-	-	-
					目標値					
					実績値		-	-	-	-
				達成率(%)		-	-	-	-	
				目標値						
				実績値		-	-	-	-	
				達成率(%)		-	-	-	-	
				目標値		60,000	60,000	60,000	60,000	60,000
				実績値		40,684	-	-	-	-
			達成率(%)		68	-	-	-	-	
			目標値		400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	
			実績値		347,717	-	-	-	-	
			達成率(%)		87	-	-	-	-	

3 分析・評価 (Check)

分析・評価で明らかになった課題	・署所施設の維持管理について、あらゆる面での節約が必要。
-----------------	------------------------------

4 今後の方向性 (Action)

課題等に対するH28対応状況	・施設等の経年劣化等も進捗中、点検、保守を確実に実施しながら、不具合の早期発見、修繕費用の抑制を継続して実施する。	
次年度の担当課の考え方	○ 維持・改善	必要となる施設の見直しや不具合の早期発見、効率的な運用等を進め、修繕費等の抑制に繋げる。
	拡大	
	縮小	
	廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費 (人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額		
	歳出(千円)	(A)	28,585	25,559	28,893	28,329	
	受益者1件当たり(円)	(A/B)	306	276	315	309	
	受益者	高山市民及び白川村民	(B)	93,308	92,595	91,684	91,684

5 予算編成 (Action2)

事業内容	・消防署(分署・出張所を含む)の運営 ・消防署(分署・出張所を含む)の維持管理	要求のポイント	・消防署(分署・出張所を含む)の維持管理費	事業実施の課題	・施設の老朽化に伴う維持管理経費の増大
------	--	---------	-----------------------	---------	---------------------

事業費(人件費除く)		H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)		28,893	28,329	△ 564	27,253	27,253	積算内容を精査	・財務部査定のとおり
財源内訳	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	その他	2,176	2,059	△ 117	2,057	2,057		
	一般財源	26,717	26,270	△ 447	25,196	25,196		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	81120	予防事業費		会計	1	一般会計	基本分野	5	基盤・安全	概観計画	消防計画	市長公約 市民の生命・財産・生活を守る「市民のための市長」として職務に専念します。
			予算	款	8	消防費	個別分野	9	消防	実施計画事業	予防事業	
担当課		内線		項	1	消防費	施策の概要	1	予防体制の充実	H29実施計画額	1,000 千円	
		2118		目	1	常備消防費						

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	高山市民及び白川村民	どうしたいのか(意図)	・市民生活の安全を守るため、火災予防対策や啓発活動の実施などにより、防火意識の高揚や防火知識の普及を図る。	概要	事業の実施手法(手段)	・防火対象物や危険物施設等の立入検査や講習会等を実施する。 ・火災予防運動や住宅防火対策等の啓発活動を実施する。
	対象者数	91,684 人					

2 事業の推移・結果 (Do)

H27の実績		<ul style="list-style-type: none"> ・立入検査年度計画の作成及び実施と違反是正 ・防火管理講習の企画運営と受講促進 ・春季、秋季火災予防運動及び文化財防火デー、危険物安全週間に伴う実施計画の作成及び実施 ・住宅用火災警報器設置対策実施計画に基づく広報及び戸別訪問等の実施 ・危険物安全協会や飛騨火薬事故防止協議会による事業への参画 							
成果面	活動指標	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		防火対象物・危険物施設の立入検査	件	目標値	801	800	800	800	800
				実績値	806	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	101	-	-	-	-
		防火管理講習の実施	回	目標値	3	3	3	3	3
				実績値	3	-	-	-	-
	算出根拠等		達成率(%)	100	-	-	-	-	
	成果指標	高齢者宅防火訪問件数	件	目標値	698	900	900	900	900
				実績値	698	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	100	-	-	-	-
		住宅用火災警報器の設置率	%	目標値	100	100	100	100	100
				実績値	97	-	-	-	-
算出根拠等			達成率(%)	97	-	-	-	-	
防火管理講習修了証の交付人数	人	目標値	100	100	100	100	100		
		実績値	117	-	-	-	-		
算出根拠等		達成率(%)	117	-	-	-	-		

3 分析・評価 (Check)

分析・評価で明らかになった課題	<ul style="list-style-type: none"> ・製品火災の原因判定など、複雑化する火災調査に対応するため、調査員の知識、技術の向上を図る必要がある。 ・火災の予防に関する高度な知識及び技術を有するものとして消防庁長官が定める資格を有する予防技術資格者を養成し、署所配置の充実を図る必要がある。 ・権限移譲事務について、専門的な知識、技術の習得や計画的な研修受講等により業務体制の充実を図る必要がある。
-----------------	---

4 今後の方向性 (Action)

課題等に対するH28対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・火災調査員及び予防担当者の知識、技術向上のため、外部機関による研修を含めた職員研修を継続実施する。 ・住宅用火災警報器設置推進について、設置率が概ね100%に達したため維持管理の啓発を主眼とし、計画的に推進する。 	
課の考え 次年度の担当	○ 維持・改善	
	拡大	・火災調査員及び予防担当者の外部及び内部研修を継続し、知識及び技術の向上を図る。
	縮小	・予防技術資格者を養成、署所に適正配置し有効活用を図る。
	廃止検討	・住宅用火災警報器設置対策実行計画に基づき、設置推進、維持管理の啓発など防火意識の高揚を図る。

コスト面

コスト指標	事業費 (人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額		
	歳出(千円)	(A)	986	970	1,030	1,334	
	受益者1件当たり(円)	(A/B)	11	10	11	15	
	受益者	高山市民及び白川村民	(B)	93,308	92,595	91,684	91,684

5 予算編成 (Action2)

事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・火災予防運動・住宅防火対策等の啓発活動 ・防火対象物・危険物施設・高圧ガス施設等の防火保安体制の充実 ・火災原因損害調査 ・高山市防火協会補助 	要求のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・火災予防の啓発等に要する経費を計上 ・許認可事務等に要する経費を計上 	事業実施の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高山市火災予防査察規程等に基づく立入査察の実施と違反是正 ・予防業務に関する研修計画(火災調査員の階層別研修を含む)の実施 ・住宅用火災警報器維持管理の啓発を主眼とした計画の作成とそれに基づく啓発強化 ・予防技術(火災調査含む)の伝承と向上 ・権限移譲に係る専門的な知識、技術の習得や研修
------	---	---------	--	---------	---

事業費(人件費除く)	H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)	1,030	1,334	304	1,030	1,030	積算内容を精査	・財務部査定のとおり
財源内訳							
国庫支出金			0				
県支出金	1,030	1,334	304	1,030	1,030		
その他			0				
一般財源			0				

平成29年度 事業別予算概要

事業名	81130	消防事業費		会計	1	一般会計	基本分野	5	基盤・安全	根拠計画	消防計画	市長公約 市民の生命・財産・生活を守る「市民のための市長」として職務に専念します。
			予算	款	8	消防費	個別分野	8	消防	実施計画事業	警防事業	
担当課	高山消防署 警防課		内線	項	1	消防費	施策の概要	2	消防体制の充実	H29実施計画額	16,200 千円	
			2117	目	1	常備消防費						

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	高山市民及び白川村民	どうしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> 消防車両、消防資器材、救助資器材等について、常に最適(良)な状態を維持し、災害時に確実に使用できるようにする。 緊急消防援助隊岐阜大隊としての訓練、近隣消防本部との連携訓練、警察及び防災航空隊等との訓練を実施し、災害時の現場対応力を強化する。 保有する消防力(人、車両、装備、資器材)を最大限に活用し、災害発生時において被害を最小限に食い止める。 	概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 各小隊活動のスキルアップを図り、複数小隊連携訓練の実施によって現場対応力を強化する。 広域災害に対応するための近隣消防本部との連携訓練、緊急消防援助隊岐阜大隊訓練の実施により連携強化を図る。 各種消防車両、装備、資器材の維持管理、不具合の早期発見により、安全かつ確実な現場活動を実施する。
	対象者数	91,684 人					

2 事業の推移・結果 (Do)

H27の実績	<ul style="list-style-type: none"> 空気呼吸器用ボンベについては、6本の耐圧検査を実施し、必要な空気ボンベ数を確保した。 消防車両21台の車検整備等を実施し、安全な車両運行及び火災現場等における確実な防衛活動を実施した。 緊急消防援助隊岐阜大隊訓練、警察及び県警山岳警備隊、防災航空隊等との訓練を実施し、連携強化を図った。 										
成果面	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31	
		火災出動件数		件	目標値	30	30				
		算出根拠等		過去10年の平均値	実績値	28	-	-	-	-	-
					達成率(%)	93	-	-	-	-	-
		救助出動数		件	目標値	60	50				
		算出根拠等		過去10年の平均値	実績値	44	-	-	-	-	-
	成果指標	連携訓練回数		回	目標値	30	35	40	45	50	
		算出根拠等			実績値	33	-	-	-	-	
					達成率(%)	110	-	-	-	-	
		空気呼吸器の耐圧再検査		本	目標値	6	18	19	14	33	
		算出根拠等			実績値	6	-	-	-	-	
					達成率(%)	100	-	-	-	-	
消防車両等車検整備		台	目標値	21	17	22	17	22			
算出根拠等			実績値	21	-	-	-	-			
			達成率(%)	100	-	-	-	-			
			目標値								
			実績値								
			達成率(%)								

3 分析・評価 (Check)

分析・評価で明らかになった課題	<ul style="list-style-type: none"> 消防車両二重運転の励行、車両及び資器材についての器具愛護の徹底により、自動車燃費、器具修繕費等の削減に繋げる。 発生が危惧されている地震災害などへの対応について、隊員のスキルアップを図り、小隊活動レベルの向上と現場対応力の更なる強化を図る。
-----------------	---

4 今後の方向性 (Action)

課題等に対するH28対応状況	<ul style="list-style-type: none"> 隊員のレベルアップや、各小隊活動のレベルアップを図り、複雑多様化する災害に対して、迅速かつ的確に活動できる体制及び現場対応力の強化を図る。 保有する車両、資器材の維持管理、点検整備を行い、不具合の早期発見と修繕費等の抑制を継続して実施する。 近隣消防本部や警察、緊急消防援助隊などとの訓練実施により、現場活動の連携強化を図ることで、被害の軽減に繋げる。 	
次年度の担当課の考え方	○維持・改善	
	拡大	現場活動の指揮力を強化することにより、災害現場における安全管理の徹底と、効果的な現場活動を実現させ、災害の早期終息及び被害の軽減に繋げる。
	縮小	消防車両及び消防資器材の確実な点検、整備による不具合の早期発見に努め、修繕費等の抑制に繋げる。
	廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費 (人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額		
	歳出(千円)	(A)	16,490	13,924	15,260	15,479	
	受益者1件当たり(円)	(A/B)	177	150	166	169	
	受益者	高山市民及び白川村民	(B)	93,308	92,595	91,684	91,684

5 予算編成 (Action2)

事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 災害対応能力の向上のための各種訓練、研修等 消防車両及び消防資器材の適正な維持管理 	要求のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 救助用資器材の整備 消防ポンプ車、救急車及びその他の車両の車検整備の他、突発的修繕への対応 	事業実施の課題	<ul style="list-style-type: none"> 多様化する災害に対応するための資器材等の更なる充実強化
------	--	---------	--	---------	---

事業費(人件費除く)		H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
財源内訳	歳出(千円)	15,260	15,479	219	14,910	14,910	積算内容を精査	財務部査定のとおり
	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	その他	820	1,110	290	820	820		
	一般財源	14,440	14,369	△71	14,090	14,090		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	81140	救急事業費		会計	1	一般会計	総合計 画	基本分野	5	基盤・安全	概観計画	消防計画	市長公約	市民の生命・財産・生活を守る「市民のための市長」として職務に専念します。
			款	8	消防費	個別分野		9	消防	実施計画事業	救急事業			
担当課		内線	項	1	消防費	施策の概要		4	救急体制の充実	H29実施計画額	7,700 千円			
		2117	目	1	常備消防費									

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	高山市民・白川村民	どうしたいのか(意図)	・救急業務を円滑に遂行すると共に、救急救命士を全ての救急隊に配属し、救急体制の充実強化を図る。 ・救命講習を通じて応急手当の重要性を理解してもらい応急手当の実施率の向上を図る。	概要	事業の実施手法(手段)	・救急救命士の有資格者の養成及び病院実習を実施する。 ・市民に対して広く救命講習会の受講の場を提供する。
	対象者数	91,684 人					

2 事業の推移・結果 (Do)

H27の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・救急現場において実働可能な新任救急救命士2名を養成した。 ・救急救命士の再教育(病院実習)を実施した。 ・薬剤認定救命士2名を追加した。 ・新処置認定救命士3名を養成した。 ・公募による普通救命講習の開催、事業所等各種団体からの要請による救命講習を実施した。 									
成果面	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		新処置認定救命士		人	目標値	27	27	27	27	27
		算出根拠等			実績値	3	-	-	-	-
					達成率(%)	11	-	-	-	-
		救命講習修了証所有者数		人	目標値	6,100	6,200	6,300	6,400	6,500
		算出根拠等		過去3年間修了者数	実績値	6,196	-	-	-	-
	成果指標	現場到着所要時間		分	目標値	9	-	-	-	-
		算出根拠等		前年度全国平均	実績値	8	-	-	-	-
					達成率(%)	105	-	-	-	-
					目標値					
					実績値					
		算出根拠等			達成率(%)					

3 分析・評価 (Check)

分析・評価で明らかになった課題	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士が行う救命処置における拡大項目(薬剤投与、気管挿管)については、救急隊員の乗車数により処置の可否が左右されるため、応援隊の出動が必要となっている。また、平成26年4月1日から処置拡大2項目が更に認められ、これを実施するためには新たな追加講習等を修了することが必要である。 ・応急手当の普及啓発を幅広く展開することで、より一層の救命率向上につながる。
-----------------	---

4 今後の方向性 (Action)

課題等に対するH28対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県メディカルコントロール協議会において、平成26年度に決定された新たな処置拡大2項目を行うことができる新処置認定救命士の育成を計画的に固りつつ、引き続き実働可能な救急救命士及び薬剤認定救命士並びに挿管認定救命士の育成事業を実施する。 ・AED設置施設やボランティア等を対象とした応急手当の普及啓発を充実させる。 	
次年度の担当課の考え方	○維持・改善	
	拡大	・救急救命士の再教育(病院実習を含む生涯教育)の充実と薬剤認定救命士、気管挿管認定救命士、新処置認定救命士の育成を今後も実施する。
	縮小	・救命講習会を今後も広く市民が受講できるよう開催する。
	廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費(人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額	
	歳出(千円)	(A) 7,445	6,973	8,834	10,411	
	受益者1件当たり(円)	(A/B) 80	75	96	114	
	受益者	高山市民及び白川村民	(B) 93,308	92,595	91,684	91,684

5 予算編成 (Action2)

事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士の再教育(病院実習、研修) ・応急手当の普及に向けた救命講習会の開催 ・救急活動に使用する救急資器材(消耗品)の購入、保守点検 	要求のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士の再教育履修、必修ポイントの取得(病院実習、研修) ・救急救命士の認定資格の取得(病院実習、研修) ・医療機関消耗品(除細動バッテリー、ケーブル)の計画的更新 	事業実施の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・挿管認定救命士の養成に必要な挿管実習は飛騨医療圏では受け入れ病院がないため、他医療機関の養成枠で実施しなければならない ・就業前病院実習等計画的に救急救命士を育成していく必要がある
------	---	---------	---	---------	--

事業費(人件費除く)	H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)	8,834	10,411	1,577	7,787	7,787	積算内容を精査	・財務部査定のとおり
国庫支出金		0	0				
県支出金			0				
その他	8,834	10,411	1,577	7,787	7,787		
一般財源			0				

平成29年度 事業別予算概要

事業名	81200	消防団運営事業費	会計	1	一般会計	基本分野	5	基盤・安全	根拠計画	消防計画	市長公約 市民の生命・財産・生活を守る「市民のための市長」として職務に専念します。
			款	8	消防費	個別分野	9	消防	実施計画事業	消防団運営事業	
担当課		消防本部 消防総務課	項	1	消防費	施策の概要	3	消防団の充実	H29実施計画額	280,000 千円	
		内線 2119	目	2	消防団費						

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	高山市民	どうしたいのか(意図)	・火災を始めとする災害等から地域住民の生命・財産を守るという消防団の任務が、迅速かつ的確に遂行できる体制づくりに努め、地域における災害時の被害軽減等を目指すことにより、市民の安全安心を図る	概要	事業の実施手法(手段)	・消防団員の任免。 ・報酬、手当等の支給。 ・消防団行事等の企画、運営。 ・消防団員への各種表彰の具申等 ・消防団施設・資機材等の維持管理
	対象者数	90,024 人					

2 事業の推移・結果 (Do)

H27の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・火災予防各種災害発生時における広報活動 ・花火大会等、各種イベントにおける警備活動 ・消防団組織等検討委員会を開催し、組織、団員定数、災害活動団員の採用等について協議し組織の活性化を図る ・消防団応援事業所制度の加入事業所の拡大 ・消防団協力事業表示制度の導入及び認定事業所の拡大 								
成果面	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
	活動指標	災害・訓練への出勤	人	目標値	29,000	30,000	30,000	30,000	30,000
				実績値	55,856	-	-	-	-
		算出根拠等	出勤延べ人数	達成率(%)	193	-	-	-	-
	成果指標	訓練・研修会実施回数	回	目標値	90	90	90	90	90
				実績値	110	-	-	-	-
		算出根拠等	達成率(%)	122	-	-	-	-	
	成果指標	警備・予防活動	回	目標値	30	30	30	30	30
				実績値	30	-	-	-	-
		算出根拠等	達成率(%)	100	-	-	-	-	
成果指標	消防団員数	人	目標値	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100	
			実績値	1,858	-	-	-	-	
	算出根拠等	達成率(%)	88	-	-	-	-		
成果指標	消防団応援事業所	事業所数	目標値	85	90	95	100	105	
			実績値	84	-	-	-	-	
	算出根拠等	達成率(%)	99	-	-	-	-		
成果指標	消防団協力事業所認定数	事業所数	目標値	50	100	120	140	160	
			実績値	59	-	-	-	-	
	算出根拠等	達成率(%)	118	-	-	-	-		

3 分析・評価 (Check)

分析・評価で明らかになった課題	・地域や支団に対し説明や協議を行い、組織の再編を進める。
-----------------	------------------------------

4 今後の方向性 (Action)

課題等に対するH28対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の再編を進め、必要な消防力を明らかにし消防団員の適正数について検討していく。 ・消防団協力事業所表示制度や消防団応援事業所制度の認定・登録事業所を拡充し、消防団員の入団促進や活動環境改善を図る。 ・県の消防団加入促進事業等を有効活用し、団員募集を推進する。 	
次年度の担当課の考え方	○維持・改善	
	拡大	・適正な車両台数になるよう組織再編を継続する。
	縮小	・消防団協力事業所表示制度や県の制度である「消防団協力事業所支援減税制度」を活用し、団員の活動環境改善を図る。
	廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費 (人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額	
	歳出(千円)	(A)	260,527	242,806	242,831	281,470
	受益者1件当たり(円)	(A/B)	2,844	2,670	2,697	3,127
	受益者	高山市民	(B)	91,605	90,938	90,024

5 予算編成 (Action2)

事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団員の報酬、報償金、賞賜金の支給 ・消防団員の公務災害、福祉共済などの福利厚生事業 ・消防団活動に必要な被服、装備品などの各種事業 	要求のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・団員が安全、有効に活動するための施設、車両、装備等の維持管理 ・消防団員の福利厚生事業 	事業実施の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団の安全確保、福利厚生の充実を図り、消防団の活性化につなげる ・消防団員を雇用する事業所の表示制度を活用し、消防団活動への理解協力につなげる
------	--	---------	---	---------	--

事業費(人件費除く)		H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
財源内訳	歳出(千円)	242,831	281,470	38,639	282,865	282,865	積算内容の精査 ・消防団入団促進策の計上	・財務部査定のとおり
	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	その他	25,400	55,409	30,009	56,600	56,600		
	一般財源	217,431	226,061	8,630	226,265	226,265		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	81300	消防施設整備事業費		会計	1	一般会計	基本分野	5	基盤・安全	概観計画	消防計画	市長公約 市民の生命・財産・生活を守る「市民のための市長」として職務に専念します。
			予算	款	8	消防費	個別分野	9	消防	実施計画事業	消防施設整備事業	
担当課		内線		項	1	消防費	施策の概要	2	消防体制の充実	H29実施計画額	15,000 千円	
		2119		目	3	消防施設費						

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	高山市民及び白川村民	どうしたいのか(意図)	・老朽化した消防施設を整備し、各種災害に対する消防力の強化と充実を行い、市民の安全安心を図る。	概要	事業の実施手法(手段)	・消防団車庫を計画的に整備する。 ・消防署施設の修繕整備をする。
	対象者数	91,684 人					

2 事業の推移・結果 (Do)

H27の実績		<ul style="list-style-type: none"> 消防団車庫修繕工事 2ヶ所 荘川支団(六蔵) 高根支団(上ヶ洞) 大野分署 訓練塔登攀板改修工事 消防救急デジタル無線等整備 								
成果面	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
					目標値					
					実績値		-	-	-	-
		算出根拠等			達成率(%)		-	-	-	-
					目標値					
					実績値		-	-	-	-
	成果指標	算出根拠等			達成率(%)		-	-	-	-
					目標値					
					実績値		-	-	-	-
		算出根拠等			達成率(%)		-	-	-	-
					目標値					
					実績値		-	-	-	-
算出根拠等			達成率(%)		100	-	-	-		
			目標値							
			実績値		-	-	-	-		
算出根拠等			達成率(%)		-	-	-	-		

3 分析・評価 (Check)

分析・評価で明らかになった課題	<ul style="list-style-type: none"> 建築年度だけでなく、現地調査により破損、老朽化状況を把握して修繕、長寿命化を中心とした整備を推進している。 他施設との併用等を図り、コスト削減に向けて、地元消防団、町内との協議及び調整を図る必要がある。
-----------------	--

4 今後の方向性 (Action)

課題等に対するH28対応状況		<ul style="list-style-type: none"> 荘川支団(上野々俣)、一之宮支団(寺)、国府支団(宮地) 3か所の整備 消防団車庫整備計画の計画修正
次年度の担当課の考え方	○ 維持・改善	
	拡大	<ul style="list-style-type: none"> 久々野支団(橋場)の整備(久々野支所整備と同一) 現地調査を継続し、平成32年度以降の整備車庫、工事内容を決定する。
	縮小	
	廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費 (人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額	
	歳出(千円)	(A) 459,452	599,380	5,000	13,289	
	受益者1件当たり(円)	(A/B) 5,016	6,473	55	145	
	受益者	高山市民及び白川村民	(B) 91,605	92,595	91,684	91,684

5 予算編成 (Action2)

事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 消防団車庫整備 消防署の施設修繕 	要求のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化した消防団車庫の整備 高山消防署にある非常用電源装置の更新 	事業実施の課題	<ul style="list-style-type: none"> 消防団車庫の老朽化に伴い、計画的に補修する必要がある
------	---	---------	---	---------	--

事業費(人件費除く)		H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)		5,000	13,289	8,289	7,000	7,000	積算内容を精査	財務部査定のとおり
財源内訳	国庫支出金			0				
	県支出金			0				
	その他			0				
	一般財源	5,000	13,289	8,289	7,000	7,000		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	81310	消防車両整備事業費	会計	1	一般会計	基本分野	5	基盤・安全	根拠計画	消防計画・消防車両整備計画・消防団車両整備計画	市長公約 市民の生命・財産・生活を守る「市民のための市長」として職務に専念します。
			款	8	消防費	個別分野	9	消防体制の充実	実施計画事業	消防車両整備事業	
担当課		消防総務課・警防課・救急課	項	1	消防費	施策の概要	2	消防体制の充実	H29実施計画額	110,000 千円	
		内線 2119	目	3	消防施設費						

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	高山市民及び白川村民	どうしたいのか(意図)	・消防車両(署・団)を適正に配置し、老朽化した車両を更新整備することにより消防活動の安全と災害時の対応能力を向上させ、市民の安心安全を確保する。	概要	事業の実施手法(手段)	・消防車両整備計画、消防団車両整備計画により、計画的に更新整備する
	対象者数	91,684 人					

2 事業の推移・結果 (Do)

H27の実績	<ul style="list-style-type: none"> 消防団車両については、高山支団(漆垣内班)、上宝支団(蔵柱班)に消防ポンプ車CD-1型2台を更新配備し、荘川支団(下野々俣班)、国府支団(糠塚班)の可搬積載車2台を更新配備した。 消防タンク車は、1台更新して上宝支団に配備した 高規格救急自動車は、1台を更新して上宝支団に配備した。 									
成果面	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
					目標値					
					実績値		-	-	-	-
		算出根拠等			達成率(%)		-	-	-	-
					目標値					
					実績値		-	-	-	-
	成果指標	算出根拠等			達成率(%)		-	-	-	-
					目標値					
					実績値		-	-	-	-
		算出根拠等			達成率(%)		-	-	-	-
				台	目標値	4	3	4	6	5
					実績値	4	-	-	-	-
算出根拠等			達成率(%)	100	-	-	-	-		
		台	目標値	2	1	1	2	1		
			実績値	2	-	-	-	-		
算出根拠等			達成率(%)	100	-	-	-	-		
		台	目標値							
			実績値		-	-	-	-		
算出根拠等			達成率(%)		-	-	-	-		

3 分析・評価 (Check)

分析・評価で明らかになった課題	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に消防車両等の更新を進め、必要な消防車両等を適切に維持管理していかなければならない。 消防車両等の更新について、国による補助等を効果的に活用する。
-----------------	---

4 今後の方向性 (Action)

課題等に対するH28対応状況	<ul style="list-style-type: none"> 消防団のポンプ自動車2台(高山支団空町班、丹生川支団白井班)及び小型動力ポンプ積載車(清見支団大原班)を更新する。 高規格救急自動車(白川出張所)を更新整備する。 	
次年度の担当 課の考え方	○ 維持・改善	
	拡大	<ul style="list-style-type: none"> 消防団の再編を推進し、適正な台数にする。 車両整備計画に基づき、計画的な更新整備を図り適正に維持管理する。
	縮小	
	廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費 (人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額	
	歳出(千円)	(A)	121,576	120,132	70,000	130,874
	受益者1件当たり(円)	(A/B)	1,303	1,297	763	1,427
	受益者	高山市民及び白川村民	(B)	93,308	92,595	91,684

5 予算編成 (Action2)

事業内容	消防車両の計画的な更新・整備	要求のポイント	<ul style="list-style-type: none"> はしご車の分解整備修繕 高規格救急車の更新(荘川出張所) 消防団ポンプ自動車2台、積載車2台の更新 	事業実施の課題	<ul style="list-style-type: none"> 消防団車両の整備について、分団・班の再編状況も踏まえつつ、消防団車両とともに計画的かつ効率的に整備が必要 充実強化を進めていくが、高額であることから、整備に合わせた財源の確保が必要
------	----------------	---------	---	---------	---

事業費(人件費除く)		H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
財源内訳	歳出(千円)	70,000	130,874	60,874	111,000	111,000	積算内容を精査	財務部査定のとおり
	国庫支出金		12,265	12,265	12,400	12,400		
	県支出金			0				
	その他	37,000		△ 37,000	18,000	18,000		
	一般財源	33,000	118,609	85,609	80,600	80,600		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	81320	消防水利施設整備事業費	会計	1	一般会計	基本分野	5	基盤・安全	概観計画	消防計画	市長公約 市民の生命・財産・生活を守る「市民のための市長」として職務に専念します。
			款	8	消防費	個別分野	9	消防	実施計画事業	消防水利施設整備事業	
担当課	高山消防署	防災課	項	1	消防費	施策の概要	2	消防体制の充実	H29実施計画額	30,000 千円	
		内線	目	3	消防施設費						

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	高山市民	どうしたいのか(意図)	・地震等の災害発生時における消防水利の確保と、避難所等における生活雑用水の確保を目的に耐震性の貯水槽を整備し、消防水利の充実と地域の防災力強化を図る。 ・既存の消防水利を適切に維持管理することで、効果的な消防活動ができる環境を維持し被害を軽減する。	概要	事業の実施手法(手段)	・耐震性貯水槽整備計画に基づき、耐震性貯水槽を整備する ・損傷、老朽化が見られる消防水利の改修、修繕 ・防火水槽の清掃(土砂除去等)による環境改善と水量維持
	対象者数	90,024 人					

2 事業の推移・結果 (Do)

H27の実績		<ul style="list-style-type: none"> 耐震性貯水槽設置予定町内への小型動力ポンプ配備 防火水槽の漏水、水槽本体及びフェンス等の破損を修繕 防火水槽の清掃(土砂除去等)による環境改善と水量維持 								
成果面	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		耐震性貯水槽整備		基	目標値	2	2	2	2	2
		算出根拠等			実績値	0	-	-	-	-
					達成率(%)	0	-	-	-	-
		消防水利施設修繕		基	目標値	9	4	4	4	4
		算出根拠等			実績値	7	-	-	-	-
				達成率(%)	78	-	-	-	-	
	防火水槽土砂除去(清掃)		基	目標値	4	2	2	2	2	
	算出根拠等			実績値	2	-	-	-	-	
				達成率(%)	50	-	-	-	-	
	成果指標			目標値						
	算出根拠等			実績値						
			達成率(%)							

3 分析・評価 (Check)

分析・評価で明らかになった課題	<ul style="list-style-type: none"> 国庫補助の獲得と設置用地の確保により、耐震性貯水槽整備計画を着実に実行しなければならない。 防火水槽躯体の老朽化が進んでおり、修繕対象の増加が見込まれる。延命化や最新の工法による簡易耐震化を研究し、検討が必要である。 消火栓維持管理について、施設の老朽化や機能低下が進行しており、効果的な修繕や改修等の検討が必要である。 老朽化が著しい、水利施設については付近における他の水利状況を踏まえ、統廃合や廃止などの適正配置の検討が必要である。
-----------------	---

4 今後の方向性 (Action)

課題等に対するH28対応状況	<ul style="list-style-type: none"> 耐震性貯水槽整備計画を修正し、引き続き震災時にも使用可能な消防水利の確保を図る。 消防水利の修繕、維持管理については、適正配置や緊急度を判断し、優先順位を決定し効率的に実施する。 消火栓の維持管理については、関係課である上水道課と連携しながら老朽化対策、機能維持を図る。 	
次年度の担当課の考え方	○維持・改善	
	拡大	<ul style="list-style-type: none"> 整備計画に基づき、引き続き老朽化した防火水槽を耐震性貯水槽に更新し、震災時にも使用可能な消防水利を確保する。
	縮小	<ul style="list-style-type: none"> コスト削減を図りながら、消防水利について適切な維持管理を実施する。
	廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費(人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26 決算額	H27 決算額	H28 予算額	H29 予算要求額
	歳出(千円)	(A) 26,322	14,480	29,000	32,257
	受益者1件当たり(円)	(A/B) 287	159	322	358
	受益者	(B) 91,605	90,938	90,024	90,024
	高山市民				

5 予算編成 (Action2)

事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 耐震性貯水槽整備計画に基づく既存防火水槽から耐震性貯水槽への更新 防火水槽の修繕(冬期にも有効に使用できるよう採水管の設置) 防火水槽の適切な維持管理(汚泥処理の委託・職員による点検管理) 消火栓の適正配置と維持管理 地下式消火栓の地上化 	要求のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な耐震性貯水槽の整備 消火栓の機能保全と適正配置 	事業実施の課題	<ul style="list-style-type: none"> 市内618基(平成28年4月1日現在)の防火水槽について、耐震性貯水槽への更新整備を進めているが、用地確保が困難な地域が多いため、既存防火水槽の補強や延命化も検討が必要 経年による消火栓の機能不良(排水不良等)が増加しており、計画的な改修が必要
------	---	---------	--	---------	---

事業費(人件費除く)	H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)	29,000	32,257	3,257	28,020	28,020	積算内容を精査	財務部査定のとおり
国庫支出金	5,386	5,386	0	5,386	5,386		
県支出金			0				
その他			0				
一般財源	23,614	26,871	3,257	22,634	22,634		

平成29年度 事業別予算概要

事業名	81330	消防資器材整備事業費	会計	1	一般会計	基本分野	5	基盤・安全	概観計画	消防計画	市長公約 市民の生命・財産・生活を守る「市民のための市長」として職務に専念します。
			款	8	消防費	個別分野	9	消防	実施計画事業	消防資器材整備事業	
担当課		消防総務課・警防課・防災課・救急課	項	1	消防費	施策の概要	2	消防体制の充実	H29実施計画額	13,000 千円	
		内線 2119	目	3	消防施設費						

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	高山市民及び白川村民	どうしたいのか(意図)	・消防資器材及び初期消火資器材については、経年等により劣化した資器材の更新を適正に行い、迅速かつ的確な消防活動を実施し、市民生活の安全を確保する。 ・自主防災組織の育成、組織の強化を図る。	概要	事業の実施手法(手段)	・計画的に資器材を整備し、有効活用することで、総合的な消防力の向上を図る。 ・初期消火資器材の更新及び修繕 ・自主防災組織の訓練指導
	対象者数	91,684 人					

2 事業の推移・結果 (Do)

H27の実績	・上下式防火衣の更新 ・消防用ホース購入 ・初期消火資器材(ホース・格納庫)の更新								
	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31	
成果面	活動指標	自主防災訓練実施組織数	組織	目標値	295	295	295	295	295
				実績値	222	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	75	-	-	-	-
				目標値					
				実績値					
				達成率(%)					
	成果指標	上下式防火衣の更新	着	目標値	8	8	8	8	8
				実績値	8	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	100	-	-	-	-
		消防ホースの更新(常備、初期消火、団)	本	目標値	149	156	156	174	156
				実績値	104	-	-	-	-
				達成率(%)	70	-	-	-	-
	初期消火資器材(格納箱)更新	基	目標値	15	10	10	10	10	
			実績値	12	-	-	-	-	
	算出根拠等		達成率(%)	80	-	-	-	-	

3 分析・評価 (Check)

分析・評価で明らかになった課題	・耐用年数のある資器材について、計画的に更新整備を図り、消防活動の充実・強化に努める。 ・消防車両等の更新について、国庫補助等を積極的に活用する。 ・資器材について、器具愛護に努め、性能及び能力を十分に活かせるよう、維持管理及び点検等の充実を図る。 ・自主防災組織における隊長の固定化を促進し、継続的な地域防災力の向上を図る必要がある。 ・自主防災組織の全組織が年1回以上訓練を実施し、その内容についても地域の実情や組織として有効に機能できるよう指導することにより、自主性を高める必要がある。
-----------------	--

4 今後の方向性 (Action)

課題等に対するH28対応状況	・消防資器材の適切な更新と整備を図り、さらなる消防力の充実を図る。 ・整備した資器材を適正に配置し、効率的に活用することにより、総合的な現場対応力の強化を図る。 ・各地域の町内会長会議などで、自主防災活動の重要性と隊長固定化の効果を訴え組織の充実を図る。 ・自主防災組織の実情に応じた訓練内容を提案し、訓練実施率の向上と内容の充実を図る。	
次年度の担当課の考え方	○維持・改善	
	拡大	・更新整備した資器材を適正に配置し、有効活用することにより総合的な消防力の向上を図る。 ・現場活動の安全を確保するとともに、2次災害の防止や災害の早期終結を図り、被害の軽減を図る。
	縮小	・自主防災組織の実情に応じた訓練内容等を提案し、訓練実施率の向上と内容の充実を図る。 ・老朽化した初期消火資器材の適切な更新を図る。
	廃止検討	

コスト面

コスト指標	事業費(人件費を除き、繰越・補正を含む)	H26決算額	H27決算額	H28予算額	H29予算要求額
	歳出(千円)	(A)	11,957	5,154	27,200
	受益者1件当たり(円)	(A/B)	128	56	297
	受益者	(B)	93,308	92,595	91,684
					91,684

5 予算編成 (Action2)

事業内容	・消防用ホースの更新 ・消防団活動のための資器材整備 ・自主防災組織へ貸与している初期消火資器材の更新 ・上下式防火衣の更新	要求のポイント	・消防資器材の計画的な整備による消防防火体制の向上	事業実施の課題	・整備資器材を活用した訓練を実施し、損害額の減額や救命率の向上につなげるなど消防活動の充実に努める必要がある ・計画的に資器材の整備を進めているが、劣化が予想以上に進んだことによる不具合の発生や、事業内容の変化等に適正に対応するため、計画の部分修正や見直しを図りながら順次整備していく必要がある
------	---	---------	---------------------------	---------	--

事業費(人件費除く)	H28当初予算額	H29予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)	27,200	24,257	△ 2,943	13,000	18,200	積算内容を精査	・消防団装備品購入に要する経費を増額
国庫支出金			0				
県支出金			0				
その他	5,892	1,012	△ 4,880				
一般財源	21,308	23,245	1,937	13,000	18,200		